

資料① 解読文

以書取申入候、過日者初而
会晤、互に情緒を尽し
欣喜斜ならず候、其砌
貴国と和親貿易之
条約延期之儀、段々
申演し処、事情黙し
難き趣旨縷述せられ、
其段熟考之上挨拶
有之様申聞らるゝにより、
悉く其意に随ひ、猶
深く思をこらし、幾回も
商量を重ねといへとも、
其許縷述之趣ハ、我等
おるてもとく推度せし
上にて思ひ定めし
事なれハ、答辞いま
他意なし、尤言語の
同しからさるより、互に
訳者の口を借りて
相通する事なれハ、
自然両情の徹底
せずして、我等か誠意の
届かさらん所は、深く
恐るゝところなれハ、猶
其節の議論を左に
詳述す、抑我国を
鎖して外交を求さりしハ、

殆三百年に及へり、然るに
亜墨利加合衆国大統領
忠告の切なるにより、近く
其制度を改め、沿海
諸船に其必需の用を
給し、再ひ亜墨利加
公使ハルリスの請に応し、
方今行ふ所の通商を
開き、魯西亞・仏蘭西・
英吉利及び和蘭の諸州へ
ひとしく条約を極しに、
開港の後、其情状意料の
外に出て、いまた其有益を
見ず、加之彼我貨幣の
価平かならずして、域外へ
輸出するの物産ハ夥しく
邦外へ、輸入の財品ハ甚
稀なり、遂に物価騰踊
日を追而甚しく、細民の
業を失へる者、窮夫の
饑寒に臨む者、怨謗
漸く起りて、富戸顕貴も
又快しとせさるの萌少な
からず、是れ我国家の
憂る所なり、積年の
習風一朝除くへきに
あらされハ、此患憂なしと
いへとも、いまた民心歓娛の程

期すへからず、況や前述る所の弊端、遍く衆庶の生産に障りあれば、勢ひ外人を厭憚し、或ハ仇視するにも至るなり、此時に当りて戸曉人諭して、後日の利益ある事を信せしむること甚難し、今其適宜の所置を思ふに、貨錢の価目を追て平均し、出入の物産内外の数を異にせず、衆民自ら其利益あるを悟り、令せずして進み、日々に外交の盛んなるを樂むの時を待て、徐にこれを計らんハ、しかし夫れ漸を以て行ふ時ハ、力を費さずして事の難きを忘れ、迫りて処する時ハ、理直なりといへとも、患害或ハ是れに随ふハ勢の然らしむる処なり、此頃白耳義・瑞西の二国より和親通商の請ありしに、是故を以て謝絶せり、方今邦内の情状、前に述ることくなれハ、政府といへとも威力をもて強ひかたく、

今其行ふへからざるを知りて、暫く其求に応するハ、誠信の道に背き、其弊害已に交る所の成盟を保ち難にも至らんことを恐る、葡萄牙は旧交の因あるにより、近日条約を結ひし所、更に物議を生し、一層の紛擾を重ねたり、今将貴国の求に応する時ハ、其他各国の求もいなみかたきに至るへし、其時勢に逆ひ、民心に違の弊、如何なる禍変を醸さんや、前知すへからず、是我輩の遠く慮り深く憂るところなり、よつて既往を鑒み、将来を察するに、急に謀て其事を誤らんよりハ、時を待て其功を全ふするにしかず、将貴邦眼前の意に忤るを憚て、我朝不測の禍患を招んより、民情馴和の後に応し、各国不朽の交誼を遍くせんにはかす、勿論書ハ言を尽さるにより、

委曲の情状ハ委任兩人の
口吻に囑せしにより、
追々面晤に詳悉有之度、
しかし又言ハ意を尽さ
ざるにより、本書布陳
する所の意と、兩人
演達する処の言と、
深思熟慮ありて
筆紙を借り言語に
寄せて、呈露し難き
我等誠款無偽の
赤心を察し、両国
懇信の安全を謀り、
人心帰向の期を待ち、
再議に就て其顛末を
終ん事を望めり、
此段申入候事

資料② 解読文

人心不折合との儀者全日本
一箇の私事ニ而外国に預候事
無之、不折合之廉々者政府之
威権にて如何様ニも所治られ度候事、
右政務難届との儀ニも候ハ、政府之詮
無之云々の意

右答

当節人心不折合之儀者日本の
政務に起るにあらず、外国と
貨幣の価不均、輸入之品絶少、
輸出之品過分ニ而物価騰貴、
民業に差障不少より自然騒立候
事にて、右貨幣之価均一之事
に付而、開港以来心を尽し議論
およひ候得共、各国公使合一の持論
ありて、内外之異同懸隔におよひし
より右の弊端を生ぜしにて、日本
一箇の所置に起るにあらず、然りと
いへとも其事を整、永久の安全を
計るハ固より政府の所任なれば
他人の請なくとも適宜之所置を
勞する段ハ勿論なり、右ハ過日も
申述し如く漸を以行ふへく、急
速の取計に難叶なり、將又其
条約之期を延さんとの望ハ、日本
の私意に因るにあらず、我邦域
不測の患害を避けん遠謀に

基けり、若是を熟察せば
貴国一己の名利のため強て其請
あらさるへし

幸漏生国も魯仏英亜等と
優劣無き処、外四国江結たる
条約を省れける者其国の名
相響云々之意

右答

貴国の強勢なる事ハ各国
遍く知る処にして、日本の扱に
依而強弱を為にあらず、今
其利害得失を審にするに、
有名の貴国万不足なくして
日本一国の交易を広むるも
恐く者益とするに不有、又日本
一国の交を欠たりとも所損
あるに非ず、詰り日本の交と
不交と幸漏生国ニおみて甚
損益あるを見ず、日本に於て
此上新に一国の交を増せ者、
民心に皆き財貨を施る事、
前述る処のことゝなれハ、其禍
害すくなからず、且其意急迫
にして事を破んより、順序
を緩とし永久の万全を計るに
しかす、素より貴国の請に
もとるにあらず、是を道理に

測るに、何れ歟公、何れ歟私、深
遠熟慮ありて再答を請ふ

外諸国と貨易御取扱相成、
独逸と無之情態者永く

難差置云々

右答

固より日本於而も此俣永く

差置の意なし、交易に利潤

あるを国民遍くさと都鄙

異辞なからん事を求て

夙夜改革に勞れハ数年を

待す人心和し内外折合へき

あひた、其節ハ速に其旨

通達およひ再議におよふ

へし